

公益社団法人広島県社会福祉士会ホームレス支援委員会(編集:江口洋子・米澤恭子・岡崎仁史)

県民の皆様の寄付金である広島県共同募金会の助成金および広島市の補助金により発行しています。感謝。

公益社団法人広島県社会福祉士会 〒732-0816 広島市南区比治山本町 12-2 広島県社会福祉会館内

TEL:082-254-3019 FAX:082-254-3018 Email office@hacsw.jp/

【広島ホームレスは減ってはいるが、把握できていない潜在的な人が多い】

厚労省のホームレス生活実態調査は、(2003 年)広島市 156 人、広島県 231 人、全国 25,296 人→(2014 年)広島市 52 人、広島県 65 人、全国 7,508 人→(2017 年)広島市 46 人、広島県 53 人、全国 5,534 人となっており、生活保護や生活困窮者自立支援制度の適用や、景気の回復による就労等で、2003 年と比較すると、約 1/5 に減らした。

[福祉領域からこぼれて司法領域での把握] しかし、広島地方検察庁の田中洋子社会福祉士は、この 1.5 年間で約 200 人の地域生活を調整しているが、彼ら障害・高齢の刑余者は夜遅くまで空いている遊技場や公共施設に居て、夜回りの会の巡回相談や社会福祉士会の入浴サービスの案内などに出会ったことなく、相談支援を受けられず、お金も無くお腹を空かせて食物の万引きや無銭飲食で警察・司法の領域にやってくるので、公私の福祉領域の支援に出会ったことがない人が一定する存在することの認識が重要である、と言う。また、生活困窮者自立支援法の総合相談の受託者である広島市社協の鈴川千賀子社会福祉士は、総合相談では今までホームレス支援で出会ったことのない人の利用が多いのに驚いている、と言う。

[稼働年齢層が 80%、そして DV で逃げてきた女性が 15%もいる、障害、刑余者などの特性]

本会受託の一時生活支援事業(シェルター)は、生活困窮・社会的孤立の人には、まずは住居提供し、落ち着いて一緒に生活設計を考えようという事業である。2016 年度利用者の特徴は、次の通りである。

- 1)利用者の年齢は、20～59 歳の稼働年齢層が約 79%、60 歳以上の高齢者層が約 21%である。直近の厚生労働省調査(2012)「全国ホームレス生活実態調査」では稼働年齢層は 48%、高齢者層は 52%であったが、この生活困窮者自立支援制度は生保受給の直前の稼働年齢の貧困層(ワーキングプア)の存在を顕在化させている
- 2)希望する生活は、「経済的精神的に安定した生活希望」であり、住居確保(約 73%)、生保申請(20%)であり、これら二つは達成できたが、就労希望(40%)の結果は不明である。
- 3)稼働年齢層、高齢者層のいずれも各種障害、刑余歴等の特徴が見られる。
- 4)年金収入は、老齢年金・障害年金は 25%であり、他の 75%は無収入で所持金はほとんど 0 円の経済困窮・社会的孤立である。
- 5)そのため、失業後のネットカフェ・野宿のホームレス経験者は 99%であり、不適切な住居と路上の間を行き来しており、相談支援で生活保護、生活困窮者支援制度につながっている。
- 6)シェルター利用日数は、1 人当たり平均約 27 日(最大 82 日、最小 2 日)、稼働率 2 室で約 89%であり、広島市全体の 15 室はいつも満室であり、慢性的にシェルターが不足している。
- 7) サポート体制は、利用者の複合した生活ニーズにあわせて福祉事務所、市社協、本会、不動産業、福祉・医療施設、弁護士、職安と広くネットワークがある。

地域の活動団体取材コーナー

民間の立場で、社会的孤立や生活困窮者を支援されている団体を訪ねて、日ごろの活動の様子や、その取り組みで工夫されていることを伺い、お伝えします。（取材）江口洋子

「カレーライス大会」の名前で親しまれる奉仕活動は2009年から始まり、偶数月 第4日曜日の午後5時から、広島市中区上幟町公園を会場として行われてきました。その後に、支援者が増え奇数月の第4日曜日にも実施（奉仕活動はカトリック校の生徒さんと保護者が担当）されている。現在、偶数月に奉仕を行っているのは、日本キリスト教団広島流川教会とカトリック幟町教会で、両教会が交代でカレー作りを担当しているそうです。8月27日（日）はカトリック幟町教会 社会部が担当でした。社会部代表の青葉和子さんは「日々、感謝の中で、その思いを共に生きるという場で活動できることを有り難く思っています。」とのこと。また、2009年から活動を続けていらっしゃる石崎ミチエさんは「自分にできることで、周囲の方々に喜んでいただけることが、とても幸せです。」と話してくださいました。両教会の信徒のほか、広島夜回りの会（カレー大会のお知らせチラシを配布）や広島県社会福祉士会有志も活動に参加し生活困窮者の情報交換が行われています。



玉ねぎをしっかりと炒め、次はニンジンね。



お茶の準備も忘れないで・・・。



すぐ洗うのが片付けのコツよ



おいしく出来たわ(^^)／



どれどれ、味を確認

カレーライス大会では、ご本人の好みに合わせて、カレーやご飯の量を調節するため、食器をもって並んで頂きます。「大盛りで」「ルーを多くして」などの要望にお応えしています。



委員会活動報告



☆ くつろぎ・入浴サービス … 米澤 恭子

「くつろぎ・入浴サービス」という名称は、きびしい路上生活の中で、例え一時でも、お風呂に入って畳の上でホッとひと息ついていただこうという意図が込められています。

このサービスは、路上生活者にアンケートを取った中で、いちばんの希望として「お風呂に入りたい」が多かったことから始めたものです。清潔は、尊厳と自信を取り戻す第一歩と考え、2004 年から始めました。

今回は、入浴サービスとはどういうものかを知って頂こうと、その全体像を述べてみます。

事業開始:

2004 年 2 月 ～ 2017 年 4 月 29 日(第四土曜日)で 602 回を数えます。

目的:

路上生活者が、お風呂に入って清潔になり、尊厳と自信を取り戻し、社会参加ができるようになること。そして、たとえひと時でも畳の上でくつろいで路上生活での緊張をほぐしてもらうこと。

場所:

西区横川新町の民間アパートの一室。

入浴の実施日時:

週一回、月 4 回。第一・第二金曜日、第三・第四土曜日。

時間:13 時、14 時、15 時、16 時。一日 4 人、予約制。但し、奇数月の最終土曜日は、昼食&相談会です。

サービスの内容:

来所してすぐ、飲み物とお菓子を取ってもらい、健康チェック

(体温と血圧測定)。その間バスタブにお湯を張る。入浴(新しい下着とタオルを提供)。上がった後食事の提供。くつろいでもらいながら会話をし、その中から生活ニーズを把握する。必要な場合は、生活保護申請や医療機関診療の支援、就労支援をする。衣服、靴、バッグ等必要品の提供。帰る時におにぎりや飲み物を持ち帰ってもらう。(せっかくきれいになった直後に、コンビニの残りもの等をあさったりしないように)。



持ち帰り用の袋に入れて手渡しします。

スタッフ:

専門職(社会福祉士、介護福祉士)、アルバイト(男性 2 名)、ボランティア(一般市民、大学生、脱路上者—支援される側から支援者へ回った人)。

以上が入浴サービスの概要です。次回は更にくわしい内容をお伝えします。

☆ ボランティアグループ「役立ち隊」活動スタート

奇数月に開催してきた『昼食相談会』。「いつもお客さんじゃなくて、せめて会場設営等は手伝って！」と声かけたところ、すすんでやってくれるようになった仲間がいます。

「仕事は探しているけど、なかなか採用されない…」そんなつぶやきも気になっていました。

「雇ってもらえないなら、自分たちで仕事を探そう、起そう！」そんな働き方をする『協同労働』も視野に入れつつ、まずは自分たちにできることで、困っている人、おなかをすかせている人たちのために何かしよう、そんなボランティア活動から始めてみよう、困ったことのある自分たちだからこそ、わかることがある…そんな思いのある仲間たちです。

引越し荷物の運搬(車への積み下ろし)、引越し後の部屋の掃除、毎月の食事会開催…とすでにいろいろ活躍中。



※食事会の食材、募集しています。毎月第3土曜を中心に開催しています。

※「手伝ってほしい」そんなニーズも受付中。出来れば交通費は出してください！

●ホームレス支援委員会メンバー鈴川まで連絡ください●

お知らせ

～中国ブロックでの情報交換会～ 参加無料/要申込み

「支援付き就労」が生み出す人材開発・人材活用・人材還流

日時:2017年10月24日(火) 13:00～16:30

会場:アークホテル広島駅南・広島市南区西荒神町1-45 TEL 082-263-6363

広島電鉄 → 的場町電停、または猿猴橋電停より 徒歩3分

申込み方法:申込書を問い合わせ先に FAX か郵送していただくか、

ホームページ(<http://lg-plat.jp/>)よりお申込みください。

お問い合わせ・公益社団法人 広島県社会福祉士会 TEL 082-254-3019

FAX 082-254-3018

基調講演は、中央大学法学部 宮本太郎教授。地方創生の最新情報や、就労支援(人材開発)をめぐる動きを踏まえ、意見交換します。